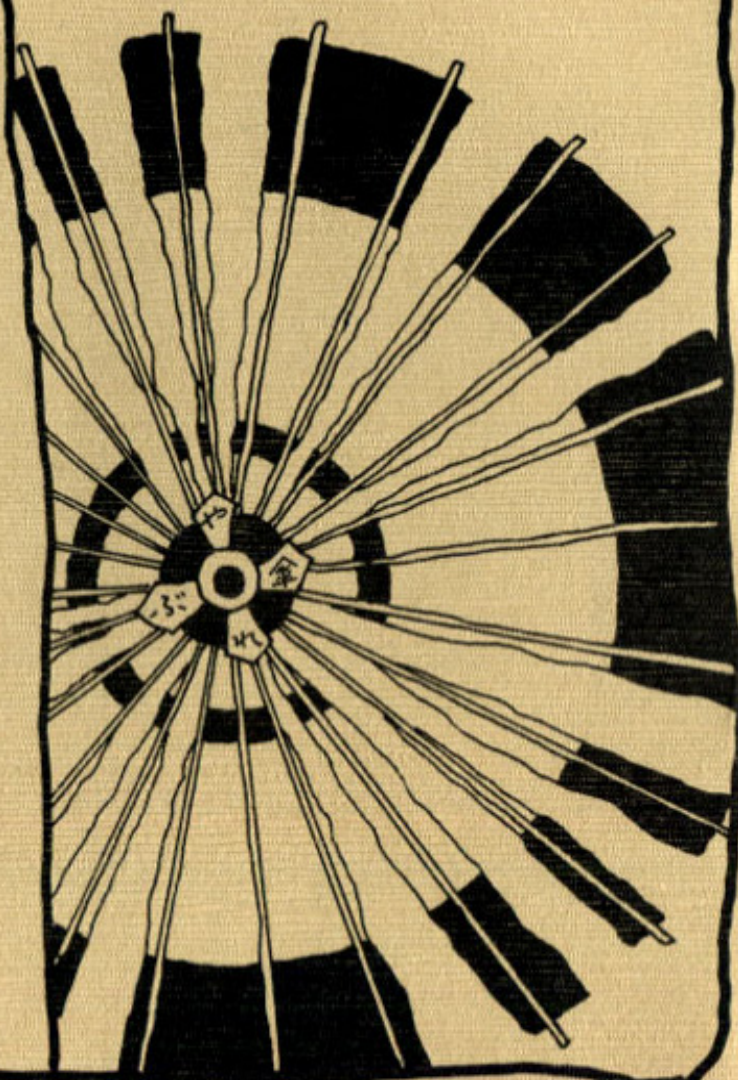


やぶれ傘



八十七号

二〇一五年十二月

綿虫や住まひのやうな町工場	根橋宏次
団栗の落ちて丸太に鳴りにけり	大島英昭
お達者地蔵その上に柿熟れて	瀬島酒望
朴落葉被りてゐたり力石	廣瀬雅男
ちちろ鳴く方へ磨ぎ汁捨てにけり	きくちきみえ
山茶花や招待状に丸つけて	丑久保勲
真四角に誤字塗りつぶす夜長かな	小山陽子
夜の風に冬の匂ひの舗道ゆく	安藤久美子
冬木の芽見をればパリのテロの報	藤井美晴
秋の昼乗換へ駅はピルの底	渡邊孝彦
見得切りしまま枯れ初むる菊人形	菊池洋子
後の月盆地の底に湯をつかひ	青谷小枝
縁側に四五個の柘榴転がされ	白石正躬
引出しに飴の出て来る長火鉢	國保八江
秋惜む大吊橋を渡りきて	久世孝雄

抄 集 句 傘 れ ぶ や  
選 夫 紀 崎 大

どんぐりを転がしてみる掌	秋山信行
頂でココアいただく秋の山	有賀昌子
銀杏の匂ひを散らす夜風かな	松村光典
ぐうの手に木の実どつちと問ふ子かな	貫井照子
秋夕焼け人工衛星ひとすぢに	野口希代志
秋空をはち切れさうな飛行船	橋本美代
熊除けの鈴りんりと秋の山	山本久枝
墓参りして野の道を帰りけり	浅嶋 肇
網棚にリュックをひとつ紅葉狩り	石塚清文
魯田にしほみかけたるゴムボール	泉 一九
蕎麦殻を枕に足して冬近し	上林富子
残る葉を落としてからの梅擬	黒澤次郎
境内は吹き溜まりなり神の留守	小池一司
名月をいま一度観て眠りけり	小巻若菜
冬に入る午後のラジオはシャンソンを	齋藤朋子

砂利山

大崎紀夫

団栗を投げて水音ひとつづつ  
洗ひ場の柱の缶に野紺菊  
草の花列車連結音ひとつ  
本棚の本の背中を見て夜長  
磧よりきて草の花あるところ

一輪車くるりと秋はゆきにけり  
信号は黄のまま冬田また冬田  
タンゴ聴く夜はストーブの火を強く  
炭窯のけむりと分かる煙見ゆ  
砂利山のでつぺんに枯れねこじやらし  
重油ストーブがうがうと魚市場  
冬風いでかまぼこ工場より煙

一輪車

根橋宏次

菊芋へ畑のけむりきたりけり  
竜胆のただひと色む挿しにけり  
道場は校舎の裏に藪からし  
搬入の大きな車美術展  
猪垣は谷の底よりのぼりくる  
まつすぐに歩いてゆけば諸畑  
昼からは細かき雨に新松子  
黄落のみちをくねくね一輪車  
綿虫や住まひのやうな町工場  
雪吊の見えめいめに昼の膳

草の花

大島英昭

草の花 ペットボトルが棄ててある  
晴れぬまま日暮なりけり花オクラ  
柿熟れてをり日あたりで鬼ごっこ  
団栗の落ちて丸太に鳴りにけり  
坂のぼる途中で秋の日の中へ  
菊を見てをればぼつりときたりけり  
やや北に偏つてゐるうろこ雲  
秋の陽をうしろにざくとラバ踏んで  
踏切の向かうの肉屋初しぐれ  
犬が吠え納屋のひさしに干し大根

バンジョー

瀬島洒望

芙蓉咲く高所作業車置き場かな  
バンジョーで始まる秋の収穫祭  
一円を落としたる音素十の忌  
椎の実を芝目の陰に拾ひけり  
鳥の糞まりつきし鉄扉や木の実落つ  
西鶴の句の話など秋深し  
初つばなにバトン落とす子運動会  
お達者地藏その上に柿熟れて  
団栗や埴輪焼きたる窯の跡  
菊飾る駅の改札口を入り

力 石

廣瀬雅男

群馬より手作り菓子と次郎柿  
草の穂の先に稲村ヶ崎かな  
ひとつ田にひとつ稲架立ち山晴るる  
草紅葉高速道の分離帯  
街道を猫の横切る小春かな  
朴落葉被りてぬたり力石  
時雨来るタクシーを待つひと時に  
荒川の中州近くを鴨の群  
前山は裾より暮るる枯芒  
登り来て手びさしで見る冬の海



磨ぎ汁

きくちきみえ

ベーコンに脂じんわり秋灯  
月光は賽銭箱に入りけり  
名月や土嗅ぐ犬を連れ回す  
ちちろ鳴く方へ磨ぎ汁捨てにけり  
脱衣場に落葉転がり来たるかな  
少しづつ日向へ落葉動きゆく  
冬の夜の細やかに注ぐ瓶ビール  
赤信号越えてゆくなり冬の鳶  
冬帽の縁より下に空と海  
弁当に並んでゐたる牡蠣フライ

葦の花

丑久保勲

深夜バス降りればあらぬ方に月  
農家への径を猫ゆく葦の花  
ブルトーザー右へ左へ雁渡し  
トラツクのバックする音水木の実  
薔薇の実の枝を紅茶のテーブルへ  
鍵かけてある農具小屋式部の実  
柵越えで投げる土器かわ初紅葉  
秋深むバス降りてすぐ美術館  
山茶花や招待状に丸つけて  
立冬や紙垂新しき天神社

夜 長

小山陽子

天 高 し 警 官 は ま た 笛 を 吹 き  
秋 深 し 青 竹 色 の 抹 茶 ラ テ  
ワ ツ フ ル を 二 つ 食 べ れ ば 暮 る 秋  
手 の 影 の ぼ ん や り と し て 秋 灯  
真 四 角 に 誤 字 塗 り つ ぶ す 夜 長 か な  
縁 石 えんせき の ぐ ら つ き を 踏 む 秋 う ら ら  
砂 利 道 に 溜 ま り 水 あ る 冬 隣  
橋 の 名 に 緑 ろく 青 しやう 薄 き 冬 は じ め  
坂 上 は 闇 の カ タ マ リ 冬 の 夜  
外 套 の 下 は 寝 卷 と 知 れ ぬ や う

手袋

安藤久美子

秋惜しむいつもの道を歩を緩く  
跳び箱の高さずんずん秋日射し  
新幹線 荻田稔 田過ぎて 河  
リフォームの間取 図展ぐ 菊の昼  
欲張れば紅葉 疲れと 京なれば  
立冬の雨に ずぶ濡れ 風見鶏  
夜の風に 冬の匂ひの 舗道ゆく  
凧のあとの 夜空の 星数ふ  
昨夜の雨あがりし ひかり 枯蘇芳  
手袋で ハイタッチして 別れけり

## ◇ 1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	國保八江
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	8日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	8日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
2月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	國保八江
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・建長寺	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

2月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所 JR鎌倉駅東口改札口(若宮大路の方)。吟行地は建長寺。句会場は玉縄学習センター(大船駅より徒歩12分)。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ